

霧島国分夏まつり特別号

第54回霧島国分夏まつり、無事終了しました!

私は霧島商工会議所青年部に入り4年、夏まつり実行委員としてまつりに携わったのは3回とまだまだ経験も浅く知識も乏しい中で平成最後で明治維新150年という節目の年に実行委員長という大役を仰せつかりました。

2月に実行委員会を立ち上げ、約半年にわたって実行委員会のメンバーと準備を進めてまいりました。振り返ればあつという間ですが、準備期間1日1日が試行錯誤の連続でした。

少しずつ形が見えてきて今年のスローガンである「超える」を念頭に置き実行委員一人一人が主人公意識を持ち取り組んできた半年間は僕個人にとってかけがえのない日々でした。

そして7月14、15日を万全の態勢で迎えることが出来ました。

両日ともに天候に恵まれ延べ約13万人の方にご来場いただきました。1日目の市民総踊りでは114団体、約6100名を超える方々に参加いただき藤本秀旗社中さんの生演奏で会場を盛り上げていただきました。

当日はまつりに参加出来ない方々へまつりを届ける慰問活動で国分中、舞鶴中、国分南中の女子生徒さんと一緒に演奏もしていただきました。

2日目の御輿は子どもこし17団体、元気みこし5団体、舞鶴御輿3団体、国分寺御輿4団体と多くの団体にご参加いただきました。

国分寺神輿会さんと協力して安全に運営にあられた事も大変良かったと思います。

そして2日間のまつり期間中に平成30年7月豪雨災害の義援金活動を行いました。舞鶴中学校さん95,650円、霧島国分夏まつり305,367円の合計401,017円の義援金が集まりました。ご協力誠にありがとうございました。皆様の善意は霧島市と霧島市社会福祉協議会へお渡し致しました。

2日間のまつりを運営するにあたり絶対に欠かせないのが、第一工業大学、第一幼児教育短期大学の学生ボランティアの方々です。

前日の準備、まつり当日、そして翌日の片づけまで本当に多くの力を貸していただきました。

4日間で第一工業大学176名、第一幼児教育短期大学112名の延べ228名にご協力いただきました。総踊り終了後のゴミ袋配布、その後の清掃活動、2日目のお昼にはまつりに来場される方が気持ちよく会場入り出来るようにとの思いから率先して再度街の清掃活動、本部での来場者や迷子の対応、落とし物の管理など多岐にわたりお力添えいただきました。

最後になりますが今回のまつりが無事に終了できました事は多くの市民の皆様のご理解とご協力があり達成出来たと思っております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第5回霧島国分夏まつりがさらなる発展をしていきますように霧島商工会議所青年部より一層励んで参りますので変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

第54回 霧島国分夏まつり 実行委員長 小田原博



第54回目となる霧島国分夏まつりが7月14・15日の2日間に渡って華やかに開催されました。今年も多くの方々のご協力やご支援を頂きながら、盛会裏に終えることができ、霧島商工会議所青年部を中心とした実行委員会の皆様をはじめ、関係者やボランティアの皆様方に心から御礼を申し上げます。

さて毎年、霧島に夏の到来を告げるまつりとして開催しておりますが、今年は天候にも恵まれ、例年以上に多くの皆様にご来場いただきました。国分の中心市街地を埋め尽くす114団体、約6100名の総踊りから、気迫溢れる御輿競争まで、暑気に負けない多くの方々の熱気で溢れ、活力とエネルギーを頂ける大変素晴らしい夏まつりとなりました。特に、まつりの最後を飾った打ち上げ花火は圧巻であり、新たに加わった火柱と噴水の共演は迫力に満ち、フィナーレにふさわしい大演出となりました。今回、打ち上げ花火の内容が充実したことで、より一層、霧島の夏を彩る魅力的なまつりになったものと思っております。

これもひとえに、明治維新150周年という節目の年に、実行委員をはじめとする若者たちが、先輩方が築き上げてきたまつりを継承し、さらに力強く熱いまつりへと「超える」努力を重ねてきた賜物であると感じております。私も、本市の未来を担う人材の育成に注力するとともに、産業の活力が溢れ、交流や賑わいが生まれるまちづくりについて、これまで以上に邁進してまいります。

最後になりますが、今年の霧島国分夏まつりの開催に向けご尽力頂いたすべての方々に感謝申し上げますとともに、本市の商工業のさらなる発展と地域経済の活性化、その他市政全般に幅広くご尽力いただいている霧島商工会議所の益々のご繁栄と会員の皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、あいさついたします。

第54回 霧島国分夏まつり 大会名誉会長 霧島市長 中重 真一



天候にも恵まれ、大きな事故等もなく、無事に第54回霧島国分夏まつりを迎え、終えられたこと、ひとえに霧島市、関係協力団体の皆様、そして何より市民の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。霧島国分夏まつりは市民総参加型であり、まずは市民の皆様が楽しんで下さること、それを常に考えながら、小田原実行委員長の掲げた「超える」というスローガンのもと、それぞれの部署で変化を加えつつ、霧島商工会議所青年部を中心に学生ボランティア、企業各社、通り会、行政、自衛隊などで構成する実行委員会が、約半年の間、準備運営を進めてまいりました。

市民総参加型企画の代表でもある「霧島総おどり」の参加は114団体・約6100人となり、二日間の総来場者数も約13万人を超えたことは、全市民的な祭りとして広がりを見せていると言えるのではないのでしょうか。

本年は、国分駐屯地の隊員の皆様が災害派遣へ向かうことになり、各種ボランティアや国分寺御輿競走へ不参加となりましたが、夏まつり会場で義援金活動などを展開し、被災された皆様や隊員の皆様へ、このまつりから元気を届けられたと考えています。

運営スタッフや参加者を含めた多くの方々による素晴らしい清掃活動など、「皆でつくりあげてこそ霧島国分夏まつり」とあらためて強く感じました。来年の第55回も益々充実したまつりとなりますよう祈念してご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

第54回 霧島国分夏まつり 大会会長 霧島商工会議所会頭 鎌田 善政



《H30年度スローガン》

把手共行

(はしゅきょうこう)

～てをとってともにいく～

《所信》

我々、霧島商工会議所青年部は20周年の区切りを終え、今年度より新しい次の節目に向かって歩み続けます。諸先輩方が『人づくり・街づくり』の精神のもと、夢に挑み挑戦し続けた20年。地域に貢献し未来の為に活動した先輩方の歴史を私たちが受け継ぎ、次の世代へ繋いでいかなければなりません。

人づくり・街づくりの精神は踏襲しつつ、各事業の企画運営は刷新し成功にむけて挑戦し成長する団体を目指します。また本年度も入部年数や年齢に関係なく青年部員なら誰でも企画提案できるチャレンジ事業を設け、仲間と共に活動できる事業を意識して取り組んでいただきたい。

人づくり・街づくりの目標は同じですが、性格も違えば目標に向かう手法も皆それぞれ違うと思います。青年部活動を通して一緒に汗をかく仲間、語り合えば思いが通じる仲間、一人でも多く仲間がいれば楽しさや喜びが増え、より良い活動ができると私は信じ把手共行をスローガンに掲げ本年度は組織の強化を図り皆さんと共に精進して参ります。

《基本方針》

- 1.人づくり・街づくりに携われる喜びを持って青年部活動を積極的に行う。
- 2.家族、地域、仲間へ感謝の気持ちを忘れずに活動する。
- 3.各事業をもう一度見直し、時代に合った事業へ挑戦し成長を継続する団体へ。

平成30年度
霧島商工会議所青年部
会長 宮田順次



霧島商工会議所青年部 副会長 小田原 惇

平成30年度霧島商工会議所青年部副会長小田原惇です。今年度宮田会長を裏からも表からも支え、青年部員が輝けるよう頑張ります！また拡大活動を中村副会長、長里前会長と共に行い青年部が輝けるよう頑張ります！



霧島商工会議所青年部 副会長 中村 広幸

霧島商工会議所青年部副会長になりました中村広幸です。宮田会長を陰ながら支えつつ、「高い志し」と「熱い思い」を胸に、「人づくり、街づくり」「地域社会貢献」のために邁進していきたいと思っております！宜しくお願い致します！

2018年も宜しくお願い致します!



霧島商工会議所青年部は今年も部員一丸と
なって、きりしまの活性化に邁進致します!

去る1月17日、2018年第1回目の行事となる「霧島商工会議所青年部 臨時総会・新年会」が執り行われました。

新年の挨拶の後、まず臨時総会では重要議案である平成30年度の役員改選についての討議が行われ、立候補による会長選出、並びに各役員の指名が行われ全会一致で可決されました。新執行部は4月の霧島商工会議所青年部定期総会にて発表されます。会の終わりには本年度をもって卒会を迎える田口暢彦監事より「今年度もあと3ヶ月、まだ事業も残ってますが、このメンバーで来年度も頑張ってください!」との激励の言葉がありました。

時代が移り変わる中、青年部の担う役割が多様化し、また部員減少など課題も多い中、決して楽な船出ではありませんが、新会長の下、来年度の一層の飛躍を目指していくことを部員一同誓います!

行動主義

2017年度霧島商工会議所青年部

